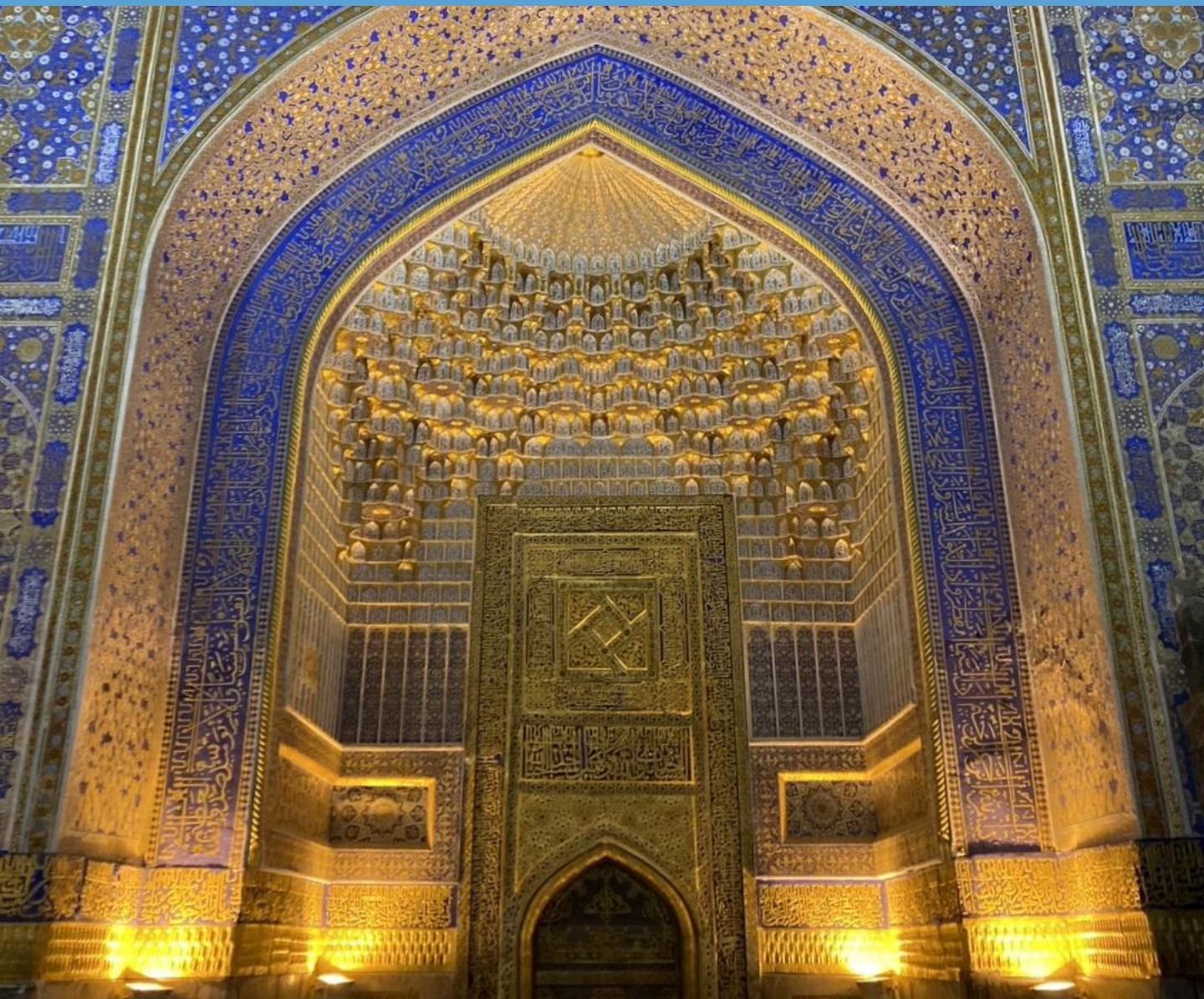


JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ウズベキスタン グリ・アミール廟

Topics

活躍する帰国留学生（キルギス）

- ◆ 活躍するJDS留学生（ケニア）
～大阪・関西万博でパビリオン運営に参加～
- ◆ ほっとひと息：ウズベキスタン



Mr. IMANALIEV Daniyar Sharshenbekovich (イマナリエフ・ダニール・シャルシェンベコビッチ氏)

立命館大学大学院経済学研究科、2012年修了、ユーラシア経済委員会(EEC) 統合・マクロ経済担当大臣



イマナリエフ・ダニール・シャルシェンベコビッチ氏
出典: [EEC](#)

2025年6月、イマナリエフ・ダニール・シャルシェンベコビッチ氏がユーラシア経済委員会(EEC)の統合・マクロ経済担当大臣に任命されました。

イマナリエフ氏は2010-12年のJDS留学後、経済省副大臣、大統領府戦略発展・経済・金融政策局長等を歴任しました。

現在、同氏はEECの統合・マクロ経済担当大臣として、マクロ経済動向の分析、リスクの特定、政策提言を通じて、域内の経済統合の強化に取り組んでいます。また、加盟国間の協力促進や持続可能な成長の推進に加え、経済統合が企業と国民の双方に利益をもたらすことを目指し、重要な役割を果たしています。

イマナリエフ氏にJDS留学のメリットについてお伺いしたところ、「日本で計量的経済モデルについて研究したため昇進することができました。留学中、日本がいかに自国の伝統を大切にしながら、他国からの知識を取入れ活用し、今日の民主主義国家を作ったのかを学び大いに感銘を受けました。特に印象的だったのは伝統的な日本の茶席に参加した経験で、そこで心の在り方・細部にも気を配ることの重要性を学びました。これらの価値観は今も私の仕事においても参考となっています。またJDSを通じて、分析能力・経済政策への理解・異文化コミュニケーション能力を高めることができ、現在の仕事において非常に役立っています」との言及がありました。

更にイマナリエフ氏は「日本はキルギスの最も親密で信頼できる友好国の一つであると確信しています。JDS事業を通して、私は日本に対して深い愛情と敬意を抱くようになりました。日本の大学で学ぶことで開けた多くの可能性に、深く感謝しています」と付け加えました。

今後も、イマナリエフ氏の活躍が期待されています。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship



Mr. Maurice Omondi Ooko(マウリス・オモンディ・オオコ氏)

政策研究大学院大学政策研究科、2025年修了、
Kenya Export Promotion & Branding Agency 主任人事担当官

2023年に来日した JDS ケニアの修士留学生、マウリス・オモンディ・オオコ氏は、所属機関の依頼を受け、9月の卒業式後に大阪・関西万博のケニア・パビリオン運営支援に参加しました。本記事では、オオコ氏が現地で体験した万博運営サポートの様子をご紹介します。



ケニア・パビリオンにて

2025年大阪・関西万博においてケニア・パビリオンの運営支援に携わる機会を得ました。JDS留学で培った日本文化やビジネス慣習に関する知識を活かし、万博期間中、ケニア・パビリオンの円滑な運営と成功に貢献しました。

私の主な業務は、パビリオン運営の監督や、会場で開催される各種イベントの企画・実施サポート、来場者が安全かつ学びのある魅力的な体験を得られるよう環境を整えること、さらにはケニアの製品や文化遺産の紹介・宣伝など、多岐にわたりました。



ケニア・パビリオンにて

特に印象的な業務としては、要人の受け入れ、コンサルティング会社の選定と調整、スタッフの管理などが挙げられます。期間中には愛子内親王殿下、経済産業省の古賀友一郎副大臣、スリランカ民主社会主義共和国のアヌラ・クマラ・ディッサナヤケ大統領、ウガンダ共和国のロビナ・ナバンジャ首相、ルワンダ共和国のオリビエ・ンドウフンギレハ外務大臣をはじめ、多くの大使や著名な来賓をお迎えする光栄にあずかりました。

2025年大阪・関西万博での経験は、国際協力、文化外交、そして高度な運営能力について学ぶ、非常に意義深い機会となりました。この経験を通じて、異文化環境での業務遂行能力や、大規模な国際プロジェクトを運営する力が一層高まり、さらに、専門性と文化的配慮をもって世界の舞台でケニアを代表する力を磨くことができました。



ウズベキスタンは中央アジアの中心に位置し、悠久の歴史と豊かな文化が息づく国です。かつてシルクロードの要衝として栄えたこの地には、砂漠やオアシス、天山山脈などの多様な自然環境が広がり、人々の暮らしに深く影響を与えてきました。

ウズベク人をはじめ、タジク人、カザフ人など多様な民族が共に暮らし、言語や文化が交わり合うことで、独自の文化が育まれてきました。今回は、そんなウズベキスタンの人々が受け継いできた食文化をご紹介します。

【Chak-chak(チャクチャク)】



ウズベキスタンの伝統的な軽食といえば、チャクチャクほど愛されているものはない、と言っても過言ではありません。

作り方はシンプルですが、手間暇がかかります。小麦粉から生地を準備し、うどんのように伸ばし、細かく切り、黄金色になるまで揚げ、山型や装飾的な形に温かい蜂蜜で固めます。蜂蜜の甘さに加えて、ナッツやドライフルーツで風味を豊かにするバリエーションもあります。見た目も味も軽めのかりんとうを思わせるチャクチャクは、日本人にも馴染みやすい一品かもしれません。

家族や親戚の集まりから結婚式まで、様々な場面で世代を超えて登場してきたチャクチャクは、味はもちろん、おもてなしと祝祭の象徴でもあります。ウズベキスタンでは、お客様にチャクチャクを振る舞うことは敬意と温かさの表れであり、単なる軽食以上のもので、ウズベキスタンの文化と伝統を味わうことができます。

JDS 3つの特徴

1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます

2 **6,708名 28カ国の実績**
※事業終了国の人数も含む ※2025年度までの人数

3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等
<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
 Bangladesh、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ、モザンビーク

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

毎年2月から3月にかけて、各国では大学教員による JDS の面接 (2次試験) が実施されています。受入大学の教員は約一週間、現地に出張し、滞在中には面接だけでなく現地の JDS 関係者 (日本側および先方政府側) と留学生の活躍状況や課題について意見交換を行うほか、帰国留学生を招いたフォローアップセミナーを実施する機会にもなっています。

国によっては、現地到着までに二日間を要する場合もあり、面接のためにご出張いただく先生方には大変恐縮に思うこともあります。しかし、面接後には「優秀な候補者と面接することができた」といったご感想をいただくことが多く、そのようなお言葉を頂戴するたびに、これまでの準備が報われた思いがいたします。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org